

平成30年勝浦町マラソン議会（8月会議）会議録第1日目

1 招集年月日 平成30年8月22日

1 招集場所 勝浦町議会議場

1 開閉日時及び宣告

開議 8月22日 午前9時29分 議長 籾 公一

散会 8月22日 午前10時09分 議長 籾 公一

1 出席及び欠席議員

○出席議員（10名）

1番	仙才守	2番	松下一一
3番	美馬友子	4番	麻植秀樹
5番	松田貴志	6番	籾公一
7番	国清一治	8番	森本守
9番	井出美智子	10番	大西一司

○欠席議員（0名）

1 会議録署名議員

5番 松田貴志 7番 国清一治

1 地方自治法第121条第1項により説明のために出席した者の職及び氏名

町長	野上武典	副町長	藪下武史
企画総務課長	山田徹	建設課長	松本博文
教育委員会事務局長	笹山芳宏		

1 職務のため出席した者の職氏名

事務局長 河野稔彦

1 議事日程（第1号）

開議宣言

日程第1 諸般の報告

日程第2 会議録署名議員の指名

日程第3 議会運営委員会所管事務調査報告

日程第4 東部広域農道整備促進特別委員会報告

日程第5 町民の声に対する質問

日程第6 議員派遣について

1 本日の会議に付した事件

日程第1 から日程第6 まで (第1号)

1 会議の経過

別紙のとおり

~~~~~

午前9時29分 開議

○議長（節 公一君） 皆さんおはようございます。

ダブル台風が気になりますが、ここ二、三日は警戒が必要と思います。

それでは、ただいまから平成30年勝浦町マラソン議会8月会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元へ配付のとおりでございます。

~~~~~

○議長（節 公一君） 日程第1，諸般の報告を議題とします。

会議等への出席状況を報告いたします。

7月27日，勝浦町で開催された町更生保護女性会との町民の声キャッチボールに議員9名が出席しました。

8月3日，徳島市で開催された町村議会議長定例会及び研修会に私が出席しました。

8月7日，勝浦町ふれあいの里さかもとで開催された鹿児島県さつま町議会行政視察に仙才議員と私が出席しました。

8月8日，徳島市で開催された徳島県町村議会議員研修会に議員9名が出席しました。

8月9日，徳島市で開催された徳島東部広域農道整備事業促進協議会第36回通常総会，同日阿南市で開催された平成30年度徳島県南部地区四国横断自動車道建設促進期成同盟会総会に私が出席しました。

続いて，監査委員から平成30年7月分の例月出納検査の結果について報告書が提出されていますので，ご報告しておきます。

次に，法第121条第1項の規定により，説明者として出席を求めたのは野上町長，藪下副町長，山田企画総務課長ほか関係各課長でございます。

以上で諸般の報告を終わります。

~~~~~

○議長（節 公一君） 日程第2，会議録署名議員の指名を議題とします。

会議録署名議員は，会議規則第128条の規定により，議長において指名いたします。

平成30年勝浦町マラソン議会8月会議における会議録署名議員は，5番松田議員，

7 番国清議員の両名を指名いたします。

~~~~~

○議長（筈 公一君） 日程第 3， 議会運営委員会所管事務調査報告を議題とします。

議会運営委員会調査結果の報告を求めます。

松田議会運営委員長。

○議会運営委員長（松田貴志君） おはようございます。

8 月 10 日並びに 17 日に議会運営委員会を開きましたので， 協議結果を報告いたします。

会議日程であります， 本日 1 日を予定いたします。

以上， 報告といたします。

○議長（筈 公一君） ただいまの議会運営委員長の報告に質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（筈 公一君） それでは， 議会運営委員会所管事務調査報告を終わります。

~~~~~

○議長（筈 公一君） 日程第 4， 東部広域農道整備促進特別委員会報告を議題とします。

本件について委員長の報告を求めます。

森本委員長。

○東部広域農道整備促進特別委員長（森本 守君） 皆さんおはようございます。

それでは， 委員長報告をさせていただきます。

東部広域農道整備促進特別委員会の廃止の報告をいたします。

本特別委員会は， 昭和 59 年 6 月 29 日の定例会において， 徳島市， 佐那河内村， 勝浦町， 上勝町にまたがる徳島東部地区の広域農道整備促進に関する調査及び推進を図ることを目的として設置されました。本特別委員会では， その設置目的に沿い， きょうまでの 34 年間に及び委員会等を開催し， 慎重な調査及び検討を進めてまいりました。

今後においても， 橋梁等難工事区間も多く残していることや予算の配分の現状から， 将来的に工事完成の目的完遂までには相当の年数を要すると判断されます。このことから， 本年 7 月 31 日に開催された本特別委員会において， 委員初め関係部局との

協議の結果、廃止を決定いたしましたので、ここに報告いたします。

以上です。

○議長（筈 公一君） 委員長の報告は終了いたしました。

ただいまの報告に質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（筈 公一君） 質疑なしと認めます。

それでは、委員長報告のとおり東部広域農道整備促進特別委員会を廃止することに決定します。

~~~~~

○議長（筈 公一君） 次に、日程第5、町民の声に対する質問を行います。

7番議員国清一治君の質問を許可いたします。

国清議員。

○7番（国清一治君） 議長の許可をいただきましたので、町民の声として7番議員、質問いたします。時間も十分ございませんので、一問一答でなしにできるだけ質問もまとめて行いたいと思います。

今回は1点でございますが、恐竜化石等の保全と活用についてであります。

今回、立川地区で国内最古級と言われるボーンベッドの発見がありました。これはマスコミの報道のとおりでございますが、まず今回の発見に至る経緯を時系列にお聞きしたいと思います。これは担当課のほうでお願いします。

それと、今まで平成6年にイグアノドンが発見されてから約25年がたっておりますが、私が見る限り、私も何回もこの発見を地域おこし、町の活性化に生かしたらどうかと質問もしました。同僚議員も質問があったと思いますが、私が見る限りは具体的な動きはなかった。また、県においても、博物館で展示もされました。私も何回も行きました。実は、きのうも行ってまいりましたけれども、そういうそれ以外に具体的な取り組みはなかったのではないかなと思ってます。そこらについて、町が今までどういう考えを持ってきたのか、県はどのような考えで来たのか。まず、今までの経緯も含めてご答弁がありましたら、副町長、町長なりありましたら答弁を願いたいと思います。

○議長（筈 公一君） 笹山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） 経緯についてご説明を申し上げます。

県立博物館は、平成28年の恐竜化石発見以来、春、秋に調査を続けていたようでございます。それで、平成30年4月から5月に、地層調査の結果、恐竜の歯、化石と思われる岩石を数点発見し、徳島県博物館でクリーニング作業を行い、その取り出した化石を福井県立恐竜博物館に送り、鑑定作業を行ってもらったとのことです。平成30年6月の下旬ごろに一部鑑定が終了し、その中で獣脚類恐竜の歯、化石、恐竜の骨化した腱の化石、白亜紀のワニの歯の化石だということが確認ができて、化石が発見された地層が恐竜化石含有層、いわゆるボーンベッドであると特定されたとのことです。それで、平成30年7月11日、県文化の森振興部長、県立博物館等の担当の方が本町に来町され、そのことについての報告がありました。それで、町長との協議の上、8月9日午後3時から県庁において臨時記者会見を開き、発表すると決まりました。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） これまでの町の活用、それから県の対応ということでございます。

議員ご質問の中にもありましたように、平成6年の発見の第1例目以降につきましては、町内事業者が例えばお菓子の恐竜の卵の製造販売をされたり、それからイグアノ井という井の販売を、鹿肉を使用されてたと思うんですけども、ジビエということでされてたようにも伺っております。また、町内のNPO法人の阿波勝浦井戸端塾さんが恐竜の里を整備され、11月には親子向けの恐竜の里ウォークラリーを実施されているということでございます。この件に関しましては、昨年度8月に行われたと思っておりますが、看板の制作とか設置については、経費とか手間の点で町としても一部ご協力させていただいたところでございます。また、例年8月のお盆期間中には、図書館のほうの2階で化石展を実施しておりまして、一昨年につきましては、当時発見されたティタノサウルス形類の恐竜の歯の化石の模型を展示させていただいたりしたところでございますし、今回につきましても、一部出土された化石、それからパネル展というところをさせていただいたところでございます。

全般的に申しまして、先ほど議員からおっしゃられたように、町としても一部であった転石からの発見ということで、継続性が余りなかったところとか、なかなか対応

しづらい部分もございましたので、一部の対応ということにとどまっていたと思われ
ます。

それから、県についてでございますけれども、一昨年のティタノサウルス形類の歯
の化石発見以来、先ほど事務局長からもご説明がありましたように、県立博物館にお
きまして、福井県立恐竜博物館、こちらのほうとか、県の愛好家のご協力のもと、現
地調査を続けてきたというところでございます。今回の発見に至ったという地道な
努力のたまものであろうかと思えます。それに際しては、町のほうも一部地権者と
いますか、土地所有者との間に立っていろいろな後継ぎをさせていただいたところ
でございます。先般8月9日に、飯泉知事と野上町長、また福井県立博物館の東特別館
長とがご同席の上で共同記者会見を開催させていただいたところでございます。県に
おきましては、博物館で去る8月10日からこの10月14日まで、今回発見された化石の
うち15点につきまして博物館の常設展示室のほうで掲示されておるということ
でございます。多くの方がごらんになられたというふうに聞いております。

現状のところは以上でございます。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） ただいま経緯については非常によく詳しくわかりました。

町の取り組み、県の取り組みについては、やはり私が知ってる範囲で余り町は具
体的には乗ってこなかったというのが、これは事実でないかと。ただ、民間のNPO法
人におきましては、今回出しております恐竜化石の保全というのは、これ活動指針の
一つに上げてます。法人の定款にこれはつきり載ってます。

ということで、民間ではずっと個人の土地を借って、小さい規模であります恐竜
の里をつくったり、毎回ウォークラリー、田上さんの発見のときにも250人で打ち切
る、応募を打ち切るぐらいでありました。多分、今回もう一回やる予定なんですけれ
ども、非常に規制をかけないと危険かなという規模になるんじゃないかと思っ
てます。ただ、残念なのは、民間としては保全には手が出せない、これは町にや
ってもらわなったら手が出せない、これは誰が見ても事実でございますし、やはり恐
竜の里にしてもボランティアでやっている関係上、あれ以上は発展はしない
んですね。私は、町がこれから本腰でやるべきじゃと思っておりますので、そ
こらの充実を含めてやっていかないと、せっかく全国、世界に誇れるこ
ういう大発見があったということ、先ほ

ど千載一遇のチャンスとは言わなんだんですけれども、私はこれを生かさなんだら何をしようかいなと。これは、私が化石展を見に行っても、ちょうど学芸員の方、辻野さんは前から知っている方ですし、化石同好会の方とも話しました、何で勝浦は何もせんのかなということだったので、これからいろいろ解決せないかん問題はあろうと思いますが、ここに質問にもありますように、どう保全して生かしていくのかということをおわせて、町も県も含めて答弁をいただけたらと思います。どちらからでも。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） これからの保全に関してのご質問でございます。

議員からお話がありましたように、民間ベースではいろいろな取り組みをしていただいております、なかなか町としてもできてなかったというのが事実でございます。

これからのことでございます。これまでの2例、平成6年それから平成28年、化石が発見されるたびいろいろニュースにもなって、そのたびに多くの方が来られているというふうにも伝え聞いております。なかなかマナーが守られていないというケースもあろうかと思えますし、ただ逆に現場は皆様ご承知のとおり、今議員からもありましたように、現状のところ私有地でございます。それから、なかなか険しい傾斜地、山中でございます。また、現地周辺までのアクセス道路につきましても狭い、狭隘で落石等の可能性もあるということで、町外から来られる、現状を知らない方につきましては危険を伴うような箇所でございます。

一方で、今回発見されました地層とか恐竜化石につきましては、単に町レベルにとどまらず、学術的にも学会レベルでも非常に重要な貴重なものであると認識しております。町としましても、今後土地所有者を初めといたしまして、地元関係者の皆さんや、もちろん県とも十分に協議を進めながら、保護対策を検討してまいりたいと思っております。また、その上で、町の内外の皆様に勝浦町の魅力と、これも含めて魅力全体をしっかりと発信していけるように、活性化に向けた取り組みを進めてまいりたいと思っております。また、県におきましても、やはりこういった知事の共同記者会見でのご発言にもありましたように、発掘調査の加速を図るということと、また土地所有者、当町との十分な協議のもと、発掘現場一帯の保護対策を早急に検討していくということもございましたので、県と協調しながら、また地元、土地所有者の方とも

十分に協議をしながら、保護対策等々について進めてまいりたいと思っております。

○議長（節 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） いろいろ具体的なこともありました。これから交渉をしていかなければなかなか進まないところもあるのかなと思っております。

私は、町長に思い起こしてほしいんですけれども、ちょうど35年前の寒凍害以後、町内が閉塞感で、町の未来に希望を失った時期が何年間か続きました。そのときに、何かをやろうと思うて、これは何回も言ってますのでなりますが、そのときにいろいろ考えて、勝浦町には何もないわということでできたのがひな祭りであって、私は言いたいのは、今回はこれだけの貴重な資源が出てきたんですね。ほんで、これは私がずっと思うとるんですが、1億3,000万年前といえど、この町が非常に豊かであった。もちろん人間はおりませんが、食べ物は豊富で、海岸ぶちの豊かな海岸であったからこそ恐竜が栄えたということは、これはもう紛れのない事実であります。化石が物語っていると思います。それが、そういう大きな発見が勝浦に何も残ってない。振り返ってみても、きのうも言うたように、勝浦の化石のほとんどが博物館にあります。立派な梅林石もありました。勝浦は保存する機能がないんですね。私が提唱しますが、化石資料館でも恐竜博物館でもいいと思うんですけれども、やはり何か保存をする、この現地に保存できる施設がなかったら、徳島は見とったんですよ。現地はここなんですね。ほんで、よく聞かれます。勝浦のどこに行ったら化石があるんで、いや、ないんじゃない。徳島の博物館はどこですかちゅうから、いや、ほらまたあっちへ行って聞いてということぐらいで、勝浦の資源がどんどんどんどん徳島市に出てます。これからもそうなると思います。一旦出たものは返ってきません。二度と返ってきません。ぜひとも、これは町長の答弁をいただきたいんですが、いろいろ町単ではまず難しいと思いますが、国なり県なりの補助金なりいろいろな制度を引っ張ってきて、やると。

それと、たちまちには既設の建物でもいいと私は思いますね。私は、図書館自体ももっと整備したら化石も置けるのかなと。例えば、人形交流館の一部とか、いろいろな既設の建物を使ったたちまちの保存方法もあると思うんです。ただ、できるまで、将来までというところこれまた10年、20年になると思います。ぜひとも、町長も新しくかわったんですから、ひなまつりを興したときを思い出していただいて、ぜひとも前へ進

めていただきたい。町長のほうから答弁をお願いします。

○議長（笹 公一君） 野上町長。

○町長（野上武典君） 改めましておはようございます。

ちょっと鼻にかかった声になっております。聞き苦しいかと思いますがご容赦ください。

今、国清議員からありましたように、今回の化石というのは勝浦町にとって非常に貴重な、また重要な財産でございます。これを生かす手はないという、生かさないとにはならないだろうというふうに私も思っている一人でございます。ただ、役場の組織内では、こういったことの学術的なものに対しての知識なりそういったものはありません。こういったところで、県また国、あるいは福井県等の方々ともいろんなところで連携しながら、町でこういったものを展示するというようなことについて、県にも、また国にも要望していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） 専門家がいなくはいろいろ言われましたけど、ここであえて私は申しますが、平成6年の第1発見者、これは当時高知大学の学生でありました菊池先生であります。この方は毎年11月には勝浦に入って、子供たちに化石の指導をさせていただいております。その人を呼べということではございませんが、今現在おる学芸員の方も非常に勝浦町に好感を持っています。私は2年か3年前から知ってるんですけども、そういうことで町がその気になったら学芸員の1人や2人は呼べます。これは呼べると思っています。要は、町がこの恐竜化石、このロマンに本腰で取り組んでいくかということです。今まではほれができなかったんです。いいものでありながら、できなかった。今度は、このチャンスを逃すことのないように進めていただきたい。

最後に、特にこの件について副町長に非常に深くかかわっていただいております。町との立場、県の立場としての動きもしていただいております。今回の化石展についてもいろいろなパネル、これは博物館に同じものをつくっていただいて、規模は同じぐらいの規模で、徳島も勝浦も飾ってました。私は、徳島へ行ったときに小さいなと思ったんですけども、勝浦ではもっと大きく宣伝はできると思いま

す。そこらも含めて、最後に町としての一番ベターな施策はどのような方向に進むべきか、副町長にお願いしたい。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） これからの町にとってのベストな選択ということでございます。今までの答弁の繰り返しになるところもございますが、ご容赦いただきたいと思っております。

先ほど議員からも、勝浦恐竜会館（仮称）ということでございましょうが、そういったものについての言及もございました。今回、日本最古級ということで、恐竜化石含有層、いわゆる単体の化石だけでなく、先ほどありましたボーンベッド、これから体系立てて恐竜の化石であろうものが数多く発見されるであろう可能性というのが今回出てきたと。なかなかこれまでは、単発で転石、転がっていた石の中にたまたま含まれていたという範囲を抜け出してなかったということでございますので、今回そういったところで、前回の2例とは大きく異なっております。こういったことで、今回の発掘自体でさらに貴重な化石の発見であったりとか、それからもっと言えば今草食竜だけです。これが草食竜がいたということは、肉食恐竜の発見、またそれから先をいけば、例えば福井県の勝山市、先行している福井の県立恐竜博物館の周辺では、白亜紀前期の地層から恐竜時代の哺乳類の骨格化石も見つかった例があるということなので、今回の勝浦町の含有層でも、肉食恐竜だけでなく、最古の類に有するような哺乳類、昔ですからおそらくネズミみたいなちっちゃいものであろうと思うんですけども、こういった化石の発見も期待されるということで、夢が広がったところでございます。町といたしましても、今後の発掘調査への協力はもちろんでございます。それから、先ほども申しましたように、土地所有者を初めとする地元関係者や県とも十分な協議を続けてまいりまして、発掘現場一帯の保護に努めてまいりたいと思っております。

さらに、先ほど議員からありました千載一遇のチャンスでございますので、将来に向けての活性化にしっかりと結びつける、これが最重要な形だと思っております。議員からお話がありましたそういった恐竜会館につきましても、決して遠い先でなくて現実の課題として取り組んでいけるように、これからどれぐらい化石が出てくるかわかりませんが、多くの化石の発見を期待しているところでございまして、博物館

だけでなく、県全体としましてもいろいろ協議を進めながら、いろんな部署と連携しながら、それから町として主体的に保全できるような取り組みについて検討してまいりたいと思っておりますので、これにつきましては、また地元議員を初め町議会全員の皆様方のご協力をお願いしたいと思いますので、今後ともよろしく願います。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） ありがとうございます。今の現状で、答弁はもうそれがベターな答弁だと思っております。

体制をつくっておかなければ、今の教育委員会で、教育委員会が悪いとかというんでなしに、片手間でできることではございません。私は、企画段階でこれは取り組むべき大きな事業だと思っておりますので、また今後いろいろとほういう組織体制もつくっていただきたい。これからお互いに研さんを重ねて、今後の経緯を見ながらまた改めて質問する機会もあると思っておりますので、今回の質問はこれをもって終わります。ありがとうございました。

○議長（笹 公一君） この件に関し、関連質問はございませんか。

ありませんか。

井出議員。

○9番（井出美智子君） 国清議員の質問に対して関連質問を行います。

勝浦町の今度の発見は、ジオパーク構想として、勝浦町だけでなく県が国に向けて大きく働きかけてほしいと思います。地球科学的な価値を持つ遺産を保全し、教育やツーリズムに生かすのをジオパーク構想といいますが、これは世界に38カ国、140カ所ジオパークがありますが、日本には9カ所、洞爺湖有珠山、糸魚川、山陰海岸、室戸、島原、隠岐、阿蘇、北海道のアポイ岳、伊豆半島と9カ所ございます。今回の勝浦町の発見は、10カ所目の日本のジオパーク構想に匹敵する中身があるものと思います。勝浦町とか県の範囲を超えて、国それから世界に向けての遺産として取り組んでいける内容だといろいろ勉強する中で感じましたので、ぜひ副町長には県の構想を超えて世界ジオパークに登録できるだけの内容として、ぜひ取り組んでいただきたいということを提言しておきたいと思っております。

○議長（笹 公一君） 答弁は。

○9番（井出美智子君） 答弁，一言。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） 済みません。非常に大きい話でなかなか答えにくいんですけど，世界ジオパークはまだちょっとこっちに置かまして。

○9番（井出美智子君） あら，置かれるん。

○副町長（藪下武史君） 実際の福井県勝山につきましても，今回といたしますか，恐竜の化石発掘を契機として，平成21年には日本ジオパークに認定されているという実例がございます。単に化石だけではございません。いろんな地層であるとか，火山活動であったりとか，それから人間の暮らし，生活の痕跡であるとか，いろんな要素が入っていると思うんですけども，その一つの契機にはなろうかと思えます。先ほど国清議員からのご質問の中でもありましたように，そういった恐竜がいたということは，水辺であったりとかそういったところで植物化石も多いし，貝の化石も多いということで，水辺の非常に生活しやすい場所だったのかもしれない。そういうことであれば，その後の世代におきましても，そういった痕跡が多々あることが今後想定されるところでございますので，そういった一連の研究の結果，そういったジオパークへの指定であるとかという道がついてくると思えますので，これを一つの契機としまして，こういった最終的に世界ジオパークの認定までつながれば非常に喜ばしいことでございますが，一つ一つ研究を重ねていくということが必要でないかと思っておりますので，心にとめておきたいと思えます。ありがとうございました。

○議長（笹 公一君） 井出議員。

○9番（井出美智子君） たまたま私の長男も卒論を立川の化石でしましたが，いつも出かける前には携帯も通じない，もし帰ってこなかったらどこかで落ちてけがしているから，救助に来るようにという一言を言ってから出かけておりました。長男に聞きましたら，やっぱり立川へ入るのは非常に危険なので，発見があるということで素人が出かけて事故につながるということもあるので，立川の道路状況の改善がこれからの勝浦町の遺産になるかどうかが一番大事ではないかと言われました。これは，町や国だけの予算では限られた中なので，ぜひ勝浦町，徳島県としての遺産としてではなく，国全体が保全すべき内容だとして，国からの予算を引っ張ってくる一つの材料として，理由として立川地区の保全にもっと視野を広げてぜひ取り組んでいただきたい

いと思い、質問を終わります。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） 今、アクセス道路の関係も含めてのご質問がございました。

この点につきましては、いろいろ検討しなければいけないことがあります。以前の一般質問で、立川地区さんにおいでる住民の方々、それからいろんな仕事で入られる方々の現状として、先ほど私からも申しましたように、落石とかがあったりして非常に危険な狭い箇所もあるということで、そういった部分での町道改修につきましては逐次やっているところでございますが、保全という面からいうと、必ずしも人がいっぱい入るような状況にするのがいいとも限りませんので、ここらあたり現場保全の考え方、こういうようなのも考え合わせながら十分に検討していく必要があると思いますので、こちらについては、現状のところでは十分今後の検討していくというところをお願いできたらと思います。

○議長（笹 公一君） ほかに関連質問ありませんか。

大西議員。

○10番（大西一司君） 何もかもやっぱり基本は地元の盛り上がりだろうと思えますよ、これ。県に頼む、国に頼むのももちろん最後はそうなんですが、まずは我々が盛り上げることで、それがひいては県や国を動かすことにつながります。ですから、段取りとしたら、これきょうは町民の声という、町民の皆さん方の代弁なんですが、これも次の一般質問、本会議での全員の議員がこれ取り上げてやるぐらいの勢いでやったほうが、私はほれぐらいの値打ちがあると思います。今まで地方創生、いろいろ事業を展開してきましたが、この1点で大きく活性化に、ほんまにころっとこの勝浦町が化けるちゅうか、そういう要素を含んだら。それぐらいの大きな事案だろうと思います。だから、とりあえずは我々が本当に町を挙げてちゅうか、そういう機運を高めて、地元がこんだけ頑張りよる、沸いとるぞというのを内外に示す必要があると思います。そういう点で、一緒になって頑張っていたきたい、やると思っておりますので、みんなで一緒に頑張りましょうということです。終わります。

○議長（笹 公一君） 藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） ありがとうございます。心強いお言葉をいただきましてあ

りがとうございます。

この件に関しましては、地元の盛り上がりということもございますが、まずは時間的な制約もありまして、共同記者会見が8月9日と、それまでにまずは土地の所有者のお話をしなければいけないということで、周辺の土地の所有者であったりとか、地元の区であったりとか、こういうところへ十分事前にお話しするタイミング、時間がございませんでした。まずは、土地所有者に了解いただかないかん、それが直前でございますので、その後すぐにお盆に入りましたという時間的な制約もあって、地元の区のほうとか、周辺の関係者にまだ実際のところきちとした説明ができてない状況です。こういった状況ではやっぱり地元の方々も不安と思いますので、今のところ私どもとしましては8月中を目標に、周辺の土地の所有者の方であるとか、地元の区の関係者であるとか、こういった皆様方に、今回の地層とか恐竜化石の発見についての経緯であるとか、今後の考え方についてとか、県にも来ていただいて説明する場を設けていきたいと思っております。まずはそこからスタートして、地元のご理解をいただく。それで、全町的にご理解、ご協力いただくようなことにつなげていきたいと思っておりますので、今後ともそれぞれの区、全町にあります各区、区長会とかいろいろな場もありますし、いろんなところでこの件につきましてお話もさせていただきたいと思っておりますし、随時ご説明させていただきたい、ご理解を賜っていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

○議長（筈 公一君） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（筈 公一君） なければ、以上で町民の声に対する質問は終わりました。

~~~~~

○議長（筈 公一君） 日程第6、議員派遣についてを議題とします。

お諮りします。

議員派遣については、お手元に配付をしましてとおりに派遣することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（筈 公一君） 異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件については原案のとおり派遣することに決定いたしました。

以上で8月会議の日程は全て終了いたしました。

以上をもって本会議に付議された案件の審議は終わりましたので、これをもって散会といたします。お疲れさんでございました。

午前10時09分 散会

以上会議の顛末を記し相違ないことを証するためにここに署名する。

勝浦町議会議長

勝浦町議会議員

勝浦町議会議員